

審査員講評 <保育文化賞>

生活を豊かにする保育計画 ～子どもも保育者も楽しい保育を～	朱い実保育園 門田 慧
<ul style="list-style-type: none">• たくあんづくりが巻きずしに発展する発想が面白い。大根の種をまき、収穫し、たくあんをつくり、子どもたちが喜ぶ行事で恵方巻を作るという一連の保育計画をたて、実行できたことがすごい。保育者自身の栽培や料理、そして保育において今まで鍛えられてきた実力を感じさせる実践であった。• 保育園の楽しさが伝わってくる。栽培・クッキングを通じて子どもの観察をよくしているが、表題と内容が結びつきにくかった。生活を豊かにするとは何か、もっと論じてほしい。• 保育園で、こども・保育者どちらも楽しんでいる様子がよくわかったが、実践報告になっていた。研究としてももう少し内容が深まっていればよかった。• 論文の構成としてはあと一歩というところだが、応募作品の中では「なるほど」と思うことが一番多かった。論文の中に、写真や図、チャートなどがあれば読みやすくなったと思う。• たくあんづくりの時間経過が子どもに伝わるように工夫をされている。ただ、論文を読む人に、例えば大根の二葉や花がどのようなものなのかわかるように写真などがあればもっと良かった。	

審査員講評 <優良賞>

人が人を育てる ～0歳児集団生活は人生の宝物～	こども園 ゆりかご 山木 直香
<ul style="list-style-type: none">0歳児が成長とともに獲得していく力を可視化しようとした点で進取性がある。データに基づいて保育を振り返り、発展させるという近年のデータ駆動型の保育・教育の考え方に沿う実践であったと思う。かつてフレーベルは子どもたちをよく観察し、人々が深く考えることもなかった子どもの遊びに深い意味を見出した。当たり前と思っていることを可視化（あるいはデータ化）して、分析をし、意味を見出していく保育者の姿勢の重要性を示してもらった。(保育の専門家ではないので)専門的なことはわからないが、0歳児の特徴も良く書かれており、観察記録にならず良く書けている。0歳児を保育するうえでよく観察をされているが、具体的なエピソードなどわくわく感が少し弱かった。次のステップに向けての言及がほしかった。保育現場にとっては日常のことで、新しいことではないが、保育に携わっていないものにとっては新しく楽しかった。そういった保育内容を外部に向けて表現することは素晴らしいし、今まで発信できていなかったことに気づいた。チャートもありわかりやすい。写真を使って0歳児の姿を可視化できていて良かった。	

審査員講評 <奨励賞>

子どもも大人も「楽しい！」運動あそび ～自園での運動あそびの実践を通して～	山ノ本こども園 堀井寿馬
<ul style="list-style-type: none">• 男性保育士が生き生きと保育している姿がイメージできた。リーベ式運動遊びを体験して視点が変わったと書かれていた。最後までリーベ式がどういうものかわからなかったが、筆者が運動指導について熱心に勉強しておられることが分かった。また、運動指導に対する情熱も伝わってきた。• リーベ式とはどういうものかがわかる資料が添付されていると良かった。• 遊び場が少ないという園の環境、お腹がすいたと言わない、背中が曲がるなど、とても重い課題だと感じた。そこからの導入をもう少し丁寧に書かれていると良かった。• ご自分の問題意識がもっとデータなどを用いて、現代の多くの園に共通する課題であることを明確にできていると本研究テーマの重要性を読者が理解しやすかった。• 安全面に配慮をしながらあるもので工夫をされているのは良かった。カラーコーンを小人さんに見立ててストーリーにしていることも素晴らしい。運動することで想像力、発想力を養える、それをうまく論文にできるとよかった。• 保育士自身がしっかりと研修を受けて学んでいる姿勢が素晴らしい。園全体で日常の保育の中で取り入れられるよう発展している点もよい。• 地域の子育て支援にもつなげていきたいという視点は他園の参考にもなる。	